シリーズ 新病院のカタチ vol.7

新病院開院に向けた抱負
「コメディカルからのメッセージ」

新病院の開院に向けた宍粟総合病院スタッフの抱負を紹介します。
今月は、「コメディカル（理学療法士や薬剤師など医師以外の医療専門職）」からのメッセージです。

リハビリテーション科 住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう

リハビリテーション科では、数年前までは脳卒中や整形外科が中心でしたが、近年は心疾患等の循環器系や呼吸器系の占める割合が増え、リハビリテーションに関わる患者さんの対象範囲が大きく広がりました。その結果、多様かつ高度な対応技術が求められるようになり、日々研鑽に励んでいます。

リハビリテーションの２本柱は、運動・日常生活活動と栄養です。一人ひとりに応じた理学療法士による適切な運動指導と作業療法士による日常生活動作指導、言語聴覚士による安全な摂食嚥下（注１）の指導が行われています。また、リハビリテーションを入院早期から始めることで、筋力低下や虚弱、栄養不良を防ぎ、日常生活活動の維持・改善を図っています。

当院におけるリハビリテーションでは、日常生活活動が改善したら、生活の質を向上させるよう、生活期リハビリ（注２）を地域の医療・介護・福祉に繋いでいく役割を担っています。新病院では、障がいのある方々や高齢者、並びにご家族が住み慣れた宍粟や近隣の地域で、一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、リハビリテーションをすすめていきたいと考えています。

注１　食べ物を口の中で噛み、飲み込みやすい大きさに変えて、口から胃へ送り込むこと。
注２　自宅や介護老人保健施設などで行うリハビリテーション。

放射線科 精度が高く有用な画像の提供を

放射線科では、CT・MRI・一般X線（レントゲン）撮影、マンモグラフィ・骨密度測定・血管造影等の撮影、手術中や内視鏡検査時のX線透視画像等の撮影および装置の点検・整備を行っています。

また、当院はMRIやマンモグラフィで検査できる市内唯一の病院です。マンモグラフィでの撮影は、市の健診でも行っています。CT・MRIは、近隣開業医の先生方から紹介を受けた患者さんに行うことも多く、高度医療機器の共同利用で地域医療に貢献しています。

検査時は、患者さんの状態に合わせた撮影方法の工夫を行い、痛みと放射線被ばくの軽減に努めています。

現在の医療は、画像診断なくしては成り立ちません。有用な画像を提供することで医療の質を保証する第一歩になります。

新病院では、より精度の高い検査で、さらに有用な画像を提供し、地域の皆様の健康に貢献していきたいと考えております。

検査科 正確な結果を迅速に提供

検査科では、血液や尿などの検体検査だけでなく、心電図や超音波検査など患者さんの身体を直接検査する生理機能検査のほか、PCR 検査など、24 時間、救急患者にも対応できるよう検査体制を整えています。

また、細菌検査室を備え、感染を疑う患者さんの原因菌を早期に特定し、適切な治療に繋げています。さらに病理検査(注1) では、手術室から提出された組織の悪性度を調べるだけでなく、手術中に患者さんから採取した組織をその場で調べる「術中迅速病理診断」も実施し、手術中の切除範囲の決定などに関与しています。

コロナ禍において、PCR 検査を通じて、臨床検査が広く世間で認識されるようになりましたが、新病院でも、ますます臨床検査の重要性が高まることが予想されます。検査科では、「迅速に正確な結果を提出する」をモットーに、医師の診断や治療に役立つ情報を提供できるよう日々努力していきます。

注1　病気(疾患)の診断や原因の究明を目的とした検査。

薬剤部 信頼される医療を

薬剤部では「地域の皆様から信頼され親しまれる病院をめざす」という病院理念のもと、常勤８人、補助員２人の計 10 人で業務を行っています。現在は、薬の適正使用を確認後、内服薬・外用薬・注射剤の調剤や、抗がん剤・高カロリー輸液の混注を行っています。また、病棟に赴き、入院患者さんに薬剤説明をすることも大事な業務として行っています。

近年、薬剤業務としては、様々な医療機関で出された薬剤を確認し、薬の内容や量を医師、看護師など他のスタッフに伝える業務が大変重要になってきました。このような背景を踏まえ、チーム医療として他職種と共に連携を図りながら、糖尿病教室に伴う薬剤の説明、精神科医と連携した薬剤業務の実施、栄養サポートチームとしての最適な栄養管理の提供、感染制御チームとしての院内感染対策活動、がん化学療法に関わる抗がん剤の適正使用に向けたサポートといった多様な業務を行っています。また、未来の薬剤師育成に向けて、薬学性の実務実習も積極的に受入れています。

多肢にわたる業務ですが、薬剤師として地域のために頑張っています。「患者さんへの対応は丁寧に、ゆっくりと」を今年度の薬剤部のモットーとし、患者さんやご家族に慕われる薬剤部をめざしています。新病院においても、地域住民の方々に貢献し、信頼される医療を提供できるよう努めていきます。

臨床工学部 安心・安全な医療を

臨床工学部では、手術室やＩＣＵ、透析センター、入院病棟などで使用されるＭＥ機器(注１) の運用管理、保守点検、操作および操作方法の説明などを行っており、機器の故障や修理においては、メーカー対応を一元的に行い、診療の補助行為を行うものとして専門性をもって業務に従事しています。業務内容については、医療機器における工学的専門性を有するものであり、特に生命維持管理装置については、深い知識や技術が必要です。

当院で取り扱う機器類は、手術室では麻酔器、電気メス、腹腔鏡システム、血液透析ではＲＯ水(注２) 装置、透析装置全般、内科では消化器内視鏡（胃カメラ、大腸カメラなど）と周辺機器、病棟では人工呼吸器、ネーザルハイフロー(注３)、輸液ポンプ(注４)、シリンジポンプ(注５)、栄養ポンプ(注６) など、多岐にわたっており、スタッフへの操作方法や注意点の説明も行っています。

また、使用中の安全確認が必要なＭＥ機器や人工呼吸器、新生児閉鎖式保育器(注７) などは、臨床工学技士も巡回しチェックをしています。新病院でも、患者さんが治療を受けられる際に、ＭＥ機器が必要となった時には、医師を筆頭に看護師や医療従事者と協力しながら、医療チームの一員として、安心・安全な医療を提供できるよう努めていきます。

注１　医用工学の技術を用いた医療機器。
注２　水道水などの原水を逆浸透膜（RO 膜）という特殊なフィルターでろ過することで、水分子以外のほぼすべての不純物を除去した水。
注３　鼻（ネーザル）から、多量の酸素を投与して呼吸器の粘膜が傷つかないように、人工呼吸器用の加温加湿器を経由して酸素を投与する高流量酸素投与システム。
注４　点滴静脈注射を施行する際に、利便性と安全性を高めるために使用される医療機器。
注５　医薬品等を充填した注射器（シリンジ）から、一定時間で一定量の薬剤を注入できる医療機器。
注６　医薬品および溶液（栄養剤）等を患者に注入する医療機器。
注７　保温・加湿・感染防止・酸素供給などのほか、光線療法などの治療が容易にできる透明なフードが付いている箱型保育器。

給食科 幅広い世代に喜んでもらう

給食科では、様々な病態の患者さんに対応した食事を提供するため、普通食、高血圧食、糖尿病食、腎臓病食など 25 種類の食事を提供しています。噛むことや飲み込むことが苦手な患者さんには、あらかじめ食材を刻んだり、口当たりが滑らかな状態にして提供したりするなど、食事形態を工夫しています。また、普通食を召し上がる患者さんには、毎週水曜日から金曜日の昼食・夕食に選択メニューを実施しており、飽きない献立をめざしています。

そのほかにも、自宅で適切な食事がとれるように栄養指導を行ったり、他職種と連携しながら NST(注１) 活動にも取り組んだりするなど、栄養状態が悪化した方への栄養サポートをしています。

当院の入院患者さんは、ご高齢の方も多数いらっしゃいますが、産婦人科もあるため、若い方の入院も少なくありません。新病院でも幅広い世代の患者さんに喜んでいただけるよう、引き続き努力してまいります。

注１　患者に最適な栄養療法を提供するために、多職種で構成された医療チーム（栄養サポートチーム）。

医療安全管理対策部 現場改善に努める

当院では、平成 14 年 10 月に医療安全管理体制として医療安全管理対策室が設置され、その後、組織横断的な医療安全管理を行うために、平成 28 年４月に医療安全管理対策部が設置されました。

医療安全管理対策部では、病院理念である「医療安全を重視し、危機管理を徹底する」に沿い、医療事故を防止し、医療安全管理の充実を図ることを目的に、院長から指名された専従の医療安全管理者１人と専任の医療安全管理者７人、各部署にはリスクマネージャーが配置されています。各部署から報告されるインシデント(注１)およびアクシデントの報告を集計し、ヒヤリングを行うことで状況を把握し、各部署のリスクマネージャーと共に分析・対策を立案し、再発防止に努めています。

また、職員へ対策を周知するために、委員会や会議での伝達、医療安全ニュースの発行、医療安全に関わる研修会なども行っています。さらに、定期的に院内を見回りながら、各職員へ指導したり、医療安全に関する相談を受けたりするなど、患者さんの安全を守るため迅速に問題解決ができるように活動しています。

新病院でも、安全・安心・信頼の医療を提供するため医療相談窓口を設けます。引き続き相談への対応や現場改善に努めていきます。

注１　事故などの危難が発生するおそれのある事態。

感染管理対策室 地域の感染対策の向上めざす

感染管理対策室では、患者さんとそのご家族、職員など当院を出入りされる全ての方を医療関連感染から守ることを目的に設置されており、医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員で構成され、感染対策の知識経験を持つ様々な職種が集って、それぞれの専門性を生かしながら、感染対策チームとして、組織横断的に活動を行っています。

具体的な業務内容は、院内での感染症の動向調査および予防対策実施、院内の見回り、職員に対する教育活動や支援・病院感染対策のマニュアル・感染対策のための指針の作成や定期的な改訂、抗菌薬適正使用の推進などを中心に活動を行っています。

また、昨今は特に感染症が大きな社会問題となってきた背景も踏まえ、新病院では、院内のみならず、地域住民の方々および医療機関、行政と情報交換や会議を通じて、地域全体の感染対策の向上をめざしていきます。

地域連携室 関連機関とスムーズな連携を

地域連携室は、地域との連携充実を図るため、平成 17 年度に開設されました。それ以降、地域住民の皆さんに安心して当院を受診し、診療を受けていただけるよう紹介や逆紹介に関する対応、入退院の調整等に取り組んでいます。

また、社会資源(注1)の利用等や地域住民の皆さんの医療・生活・福祉などの相談にも応じています。令和３年度においては、皆さんから約 4500 件の相談を受け、対応させて頂きました。

現在、地域連携室は、医師・看護師・退院調整看護師・医療ソーシャルワーカー・事務職員で構成され、それぞれの専門分野で各担当が知識を出し合い情報共有することで、チーム一丸となって、患者さんとそのご家族に寄り沿った支援が出来るように努めています。

新病院では、紹介元の医療機関や高度専門医療機関など各関連機関とスムーズに連携が取れる体制を充実させ、「安心出来る医療体制」の提供にも努めていきます。

注１　主に介護保険等を踏まえた自宅での療養支援など。

入院支援室 不安のない療養生活を

入院支援室は、患者さんが安心して入院生活を送れるように、令和元年に開設され、１階の待合ロビー横に設置しています。

現在、年間約 650 人の入院予約の患者さんへの入院支援を行っており、入院に関する準備物・書類・費用、入院後の検査や治療、手術の流れについてクリニカルパス(注1)を用いて、わかりやすく説明を行っています。また、入院にあたっては、治療に対する必要な情報の確認、現在の服薬確認、休止していただく薬の説明、食物アレルギーの確認なども行い、安全で安心して入院していただくように支援しています。必要な場合は薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどと連携して、患者さんに説明をさせていただいています。

新病院においても、入院当日までに入院生活での不安や質問などがありましたら、電話にてお受けし、患者さんが不安なく入院当日が迎えられ、より良い療養生活を送っていただけるよう努めていきます。

注１　入院から退院までの治療・検査のスケジュールを時間軸に沿い、記述した治療計画表。

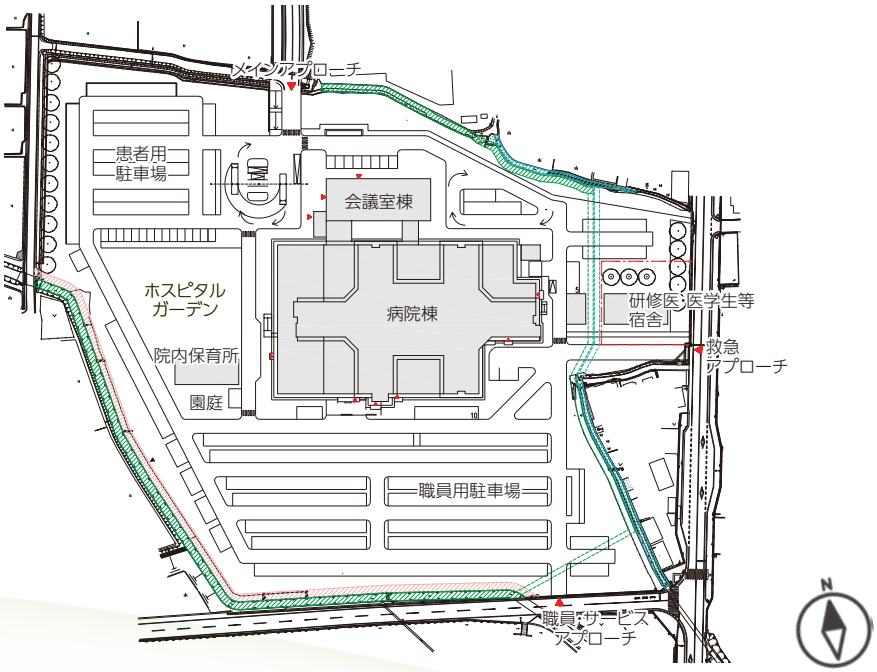
<番外編>

報告 新病院整備の進捗

現在、新病院整備事業においては、今年４月より着手した基本設計が中間段階に入りました。現状では、敷地全体の大まかな配置計画、各階の配置計画および階構成がまとまった状態です。今月はその概要を紹介します。なお、配置計画と平面計画を紹介する番組が市公式 YouTube で配信されているほか、10 月 20 日(木)からはしそうチャンネルでも放映されます。

鳥瞰図 （イメージパースのため、実際の配置計画とは異なる場合があります）

配置計画



概要 中央部：病院棟・会議室棟　東側：研修医・医学生等宿舎
西側：患者用駐車場・院内保育所・ホスピタルガーデン　南側：職員用駐車場

1 階平面計画

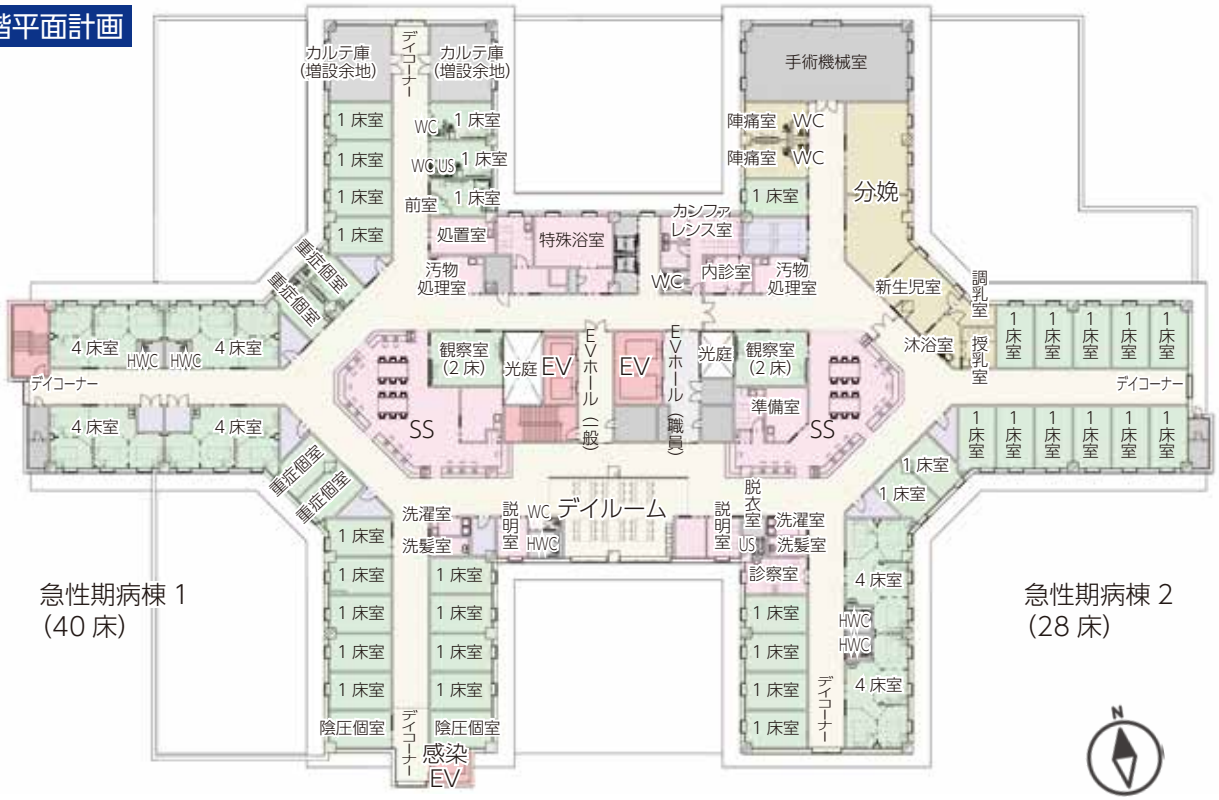
概要　外来・検査エリア、会議室棟

2 階平面計画

概要　リハビリ・透析・手術・管理エリア

別冊 宍粟総合病院からの別冊です。
広報紙からはずしてご覧ください。

3 階平面計画



概要 急性期病棟、産婦人科・小児科病棟

4 階平面計画

概要 地域包括ケア病棟

次回のテーマは「新病院へのギモン」です。